

## 『小さな声に耳を傾けて』

朗読者 森山 良子

9

学生時代からの友人が闘病生活の末に亡くなりました。

大学を卒業し就職してからすぐに、頸椎に腫瘍ができたので手術をする、という知らせに私たち一同びっくりしたものです。二度に亘る手術を行い、リハビリに入っていた彼は、数年後に今度は脳梗塞に襲われ、言葉が不自由になってしまいました。

10

明るかった彼は仲間に対して積極的に電話をしてくれました。私にも電話がちよいちよいかかってまいります。

「ねえねえ、森山、丸くて、厚くて、でっかくなって、白いものって何だ？」

15

言葉がなかなか出てこないので一生懸命です。

「エー、なに？そんなものわかんないわよ！」

「ダメな奴だな！よく考えてみるよ！」

20

腫瘍とか脳梗塞とか車椅子とか、会話の困難さとか、そんなことは一切無視して、俺は元気だよというメッセージ。彼の明るさがとても嬉しかったことを覚えています。

私たちは、誰もが心の中にいろいろな悩みや不安を抱えています。

家族の病気、子どもの就職、職場でのいじめ、結婚、高齢者介護など。いろいろな問題があふれています。

人間は自分が抱えている不安や不満を他人に聞いてもらうだけで孤独から解放され、不安が薄れるといわれています。

友人が、不自由ながらも、電話をしてきて一生懸命にナゾナゾをしたり、外国での話を語ったり、そんな姿を見せてくれたのも「俺は大丈夫だ。元気だよ」というメッセージを送ってくれていたのだと思います。

あなたの身近な人たちの中にも、心に悩みを抱えていたり、生きづらさを感じている方がいるかもしれません。

「どうしたの?」「何か話したいことがあるんじゃない?」あなたの一言が救いの手になります。その人の言葉に耳を傾けることが、生きる勇気となり、心の荷物を軽くすることになるかもしれません。